



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「人は皆、上に立つ権威に従うべきです」

聖書(ローマ書13章1節)

牧師 河合裕志

ここでパウロの言う「上に立つ権威」とはこの世の「支配者」(3節)のこと。当時であればローマ皇帝を頂点とする支配体制・統治・権力機構ということに。これに従いなさい、とすすめる。

それは具体的には「貢を納めるべき人には貢を納め、税を納めるべき人には税を納めなさい」(7節)ということになる。

パウロのこのような支配者に従順な姿勢はどこから生まれたのだろう。①「今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです」(1節)。イスラエルの王は初代のサウル王をはじめ神によって立てられたものと信じられていた。今パウロはそれを外国の支配者にも拡大。

②支配者は「神に仕える者」(4節)としてよい働きをしていると評価。善を行う者はこれをほめ、悪を行う者には罰を与える。「権威者はいたずらに剣を帯びているのではない」(4節)。このようにして世の秩序が保たれている。

③パウロは自由に安全に帝国内を通行し福音の伝道に当ることが出来たのはパックス・ロマーナ(ローマの平和)のお陰、またローマ市民権を保持していたので、ユダヤ人達から襲われた時、皇帝に上訴してローマにまで護送してもらえた。この体制は有難いとの思い。

以上、支配者への従順を説く背景を見たが、今わざわざこれをローマの信徒に向けて書いたのには次の心配があったのでは？

④イスラエルにおける熱心党のように反体制的・暴力的集団とならないように。⑤世の終りが近い、と主張して世の秩序を軽視するようなことのないように。

パウロとしては船出したばかりのキリストの教会が世の荒波をかぶることを最小限にしたかったろう。教会は決して反体制ではない、むしろこれを支持すると言いたかった。これは今日も受け継がれて来ているところ。

ただ時の支配者、権力者がデタラメをやると従順とは行かなくなる。ドミティアヌス皇帝(紀元81~96年在位)になった時、自ら「主にして神」として皇帝礼拝を強要して来た。さあクリスチャンは困った。主にして神はイエス・キリストだったから。この命令には従えないということで迫害・弾圧が加えられることに。

この他にも上に立つ者がデタラメを行う時にはもはや「神に仕える者」とは見なさずこれに従わない。クリスチャンは普段は羊のようにおとなしいけれど、それも時と場合によるということ。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時~7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時